

トマトの接木栽培における整枝法について

1. 試験のねらい

トマトの接木栽培は土壌病害対策として広く普及しているが、その労力軽減や草勢管理のために2～4本の複数主枝を仕立てる栽培法が行われてきている。そこで、主枝及び側枝を利用した整枝法の相違が、生育・収量・品質に及ぼす影響について検討した。

2. 試験方法

- (1) 促成栽培：昭和61～62年度の2カ年にわたり、表-1、2に示すような処理区を設けて栽培した。61年度は、台木を8月27日、穂木を9月6日には種し、9月24日に接木した。側枝整枝の摘心区は10月18日に処理した。定植は主枝整枝区が11月10日、側枝整枝区が11月24日に行った。62年度は、台木を9月5日、穂木を9月10日には種し、10月8日に接木した。側枝整枝の摘心は10月25日に行った。定植は主枝整枝及び主枝・側枝整枝が11月20日、側枝整枝が12月15日に行った。
- (2) 雨よけ栽培：61年度は表-3に示すような処理区を設けた。台木を3月6日、穂木を3月12日には種し、4月13日に接木した。側枝整枝の摘心は5月3日に行った。定植は主枝整枝区が5月20日、摘心整枝区が6月3日に行った。

3. 試験結果及び考察

- (1) 主枝あるいは側枝の揃いは、主枝整枝1本及び側枝整枝1～3本仕立て区でよく、仕立て本数が多くなるに従い揃いが不良となった。作型による傾向の違いはみられなかった。
- (2) 開花期は主枝整枝区、主枝・側枝区が早く、側枝整枝区は遅れた。仕立て本数間では、仕立て本数の少ない区が早く、多くなるに従いや遅れた。収穫期は開花期とほぼ同じ傾向であった。作型による傾向の違いはみられなかった。
- (3) 収量は、促成栽培では主枝整枝区、側枝2本仕立て区、主枝・側枝2～3本仕立て区がやや多かった。主枝整枝1～3本区では早期収量が多く、仕立て本数間では仕立て本数が少なくなるに従い多くなった。主枝・側枝区では収穫期間が長期化し、仕立て本数が多くなるに従いその傾向は強くなった。

雨よけ栽培では、早期収量は主枝整枝区で多く、仕立て本数間では仕立て本数が少なくなるに従い多くなった。総収量は側枝整枝区で多く、仕立て本数間での明らかな傾向は特に認められなかった。

- (4) 不良果の発生は年次により異なり、一定の傾向は認められなかった。花痕の大きい果実は仕立て本数の多い区で多発生する傾向であった(昭和62年度、促成栽培)。

4. 成果の要約

トマトの接木栽培における整枝法の相違が、生育・収量・品質に及ぼす影響を、促成栽培と雨よけ栽培で検討した。いずれの作型でも、苗の活着や揃いがよく、早期収量の多い主枝整枝1～2本仕立て区が現在のトマト栽培ではよいと考えられた。側枝整枝は苗の揃いの点で2～3本仕立てが限界と考えられた。

(担当者 野菜部 深澤郁男)

表-1 昭和61年度促成栽培

No	仕立て本数		月別可販果収量						計(1茎当り)		不良果発生率					a当り収量 Kg
	主枝	側枝	2月	3月	4月	5月	6月	果数	収量	空 軽	ど 重	あ き	だ 円	乱 形	く ず	
1	1	-	477	777	1638	520	-	22.3	3,412	1.1	6.1	0	0	0.7	972	
2	2	-	517	539	1412	1008	-	20.5	3,476	0	7.2	2.5	0	1.5	991	
3	3	-	312	699	1563	933	-	22.3	3,507	0	3.9	2.7	0	0.8	1000	
4	4	-	247	677	1479	1058	-	20.9	3,461	1.2	3.2	0.8	0	2.0	986	
5	-	1	268	472	1444	1046	24	20.2	3,254	0.7	3.6	3.6	0	0.7	927	
6	-	2	330	420	1149	1518	49	21.9	3,466	0.7	1.7	1.7	0.7	1.4	988	
7	-	3	399	523	1190	1199	142	21.7	3,353	0	2.3	0.9	0.5	1.8	956	
8	-	4	353	570	1344	987	121	20.3	3,375	0	2.8	2.8	0	2.5	961	

表-2 昭和62年度促成栽培

No	仕立て本数		1茎当り可販果			1果重 a当り			不良果発生率%※					花痕の大きさ別比率%※		
	主枝	側枝	果数	果重g	g	収量Kg	空洞果		窓あ き果	だ円 果	乱形 果	くず 果	小	中	大	
							重	軽								
1	1	-	24.6	4542	185	1226	8.6	11.8	11.6	5.1	10.9	8.8	72.3	16.6	11.1	
2	2	-	23.8	4157	175	1122	3.5	10.6	17.1	12.7	11.9	10.5	70.1	15.9	13.6	
3	3	-	24.1	4302	178	1162	4.6	9.6	13.7	10.7	17.3	8.1	66.3	18.2	15.6	
4	-	1	21.6	3998	185	1079	8.6	17.2	10.3	10.8	11.8	6.9	69.9	17.5	12.7	
5	-	2	22.7	4129	182	1115	2.5	8.3	13.7	12.3	8.7	7.0	71.3	16.0	12.7	
6	-	3	21.3	3906	183	1055	2.4	10.3	13.2	10.1	10.0	6.3	68.0	14.7	17.3	
7	-	4	21.5	3700	172	999	2.2	4.1	10.7	12.7	11.2	7.0	68.5	14.7	16.9	
8	1	1	23.2	4172	180	1126	2.4	8.7	11.6	10.8	17.5	6.7	70.5	13.3	16.3	
9	1	2	24.9	4364	175	1178	3.3	8.0	15.1	9.8	15.5	8.1	72.3	13.7	13.8	
10	1	3	23.3	3971	170	1072	1.1	8.1	18.3	10.7	16.3	7.8	68.1	16.3	15.7	

注 ※ 全果数に対する比率

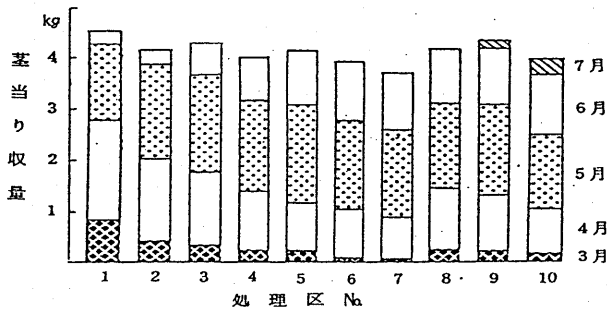


図-1 整枝法と月別収量(昭和62年度促成栽培)

表-3 昭和61年度雨よけ栽培

No	仕立て本数		7月		8月		9月		計(1茎当り)		1果重 a当り収量	
	主枝	側枝	果数	果重g	果数	果重g	果数	果重g	果数	果重g	g	Kg
1	1	-	8.8	1564	5.8	1198	1.3	171	15.9	2933	185	733
2	2	-	8.5	1526	6.8	1330	0.7	103	16.0	2959	185	740
3	3	-	7.8	1394	7.0	1514	1.0	190	15.8	3078	196	775
4	4	-	8.1	1371	6.3	1146	0.8	138	15.2	2655	175	664
5	-	1	6.1	1064	5.8	1194	4.8	885	16.7	3143	188	786
6	-	2	5.1	1053	6.1	1181	5.0	890	16.2	3124	193	781
7	-	3	5.1	994	6.8	1280	5.2	1003	17.1	3277	192	819
8	-	4	4.6	898	7.1	1459	4.9	884	16.6	3181	192	795